



Q：更年期障害について教えてください(53歳女性・主婦)

A：閉経の前後5年間を更年期といいます。この時期に現れる、日常生活に支障を来す症状を更年期障害と呼びます。女性ホルモン(エストロゲン)の減少によるホルモンバランスの乱れが要因です。

同時に、対人関係や家族の問題など、社会的・環境的要因も絡みあっています。症状は、突然パツと顔が暑くなる「ホットフラッシュ」と呼ばれるほてり・のぼせ、発汗、疲労感、肩凝り、不安感、抑うつ、不眠など多種多様です。更年期にある女性は、多かれ少なかれ症状が出やすくなります。

す。治療するかどうかは、日常生活に支障を来しているかによります。

ホルモン補充療法は、減少したエストロゲンを補充するものであり、確かに有効な治療法です。しかし、長期投与することによって乳がんのリスクが上昇すると言われています。また、子宮のある人はエストロゲンによる子宮内膜増殖症や子宮内膜がんの発生を予防するために、黄体ホルモン製剤も併用します。

また、漢方薬を用いることも多く、症状によってはホルモン補充療法と同程度の効果が期待できます。そして、精神症状の強い場合には、向精神薬が用いられることもあります。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎055・288・1801